津ノ井地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年８月２７日（木）　１９：００～２０：１５
２　会　場　津ノ井地区公民館
３　出席者　地元出席者　　３２名
市側出席者　　１１名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、岡道路課長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン（素案）についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　地域の重要課題について
１　地区公民館の耐震工事及び男女トイレ改修について
＜地域課題＞
①昭和５２年３月築の地区公民館の耐震調査を行った結果、新築ではなく耐震工事とした理由について
②トイレの男女別化における改修整備について
　ア）１、２階のトイレの男女別化改修について
　イ）部屋やロビーなどの、使用している部屋を狭くしての整備ではなく、裏のスペースなどを利用した増設について
③２階大会議室利用のためのエレベーター設置によるバリアフリー整備、または裏のスペースを使った新たなスロープ設置について
④環境大学生の利用増加に伴う、地区公民館への多目的ホール（交流プラザ）の新設について

＜担当部局の所見等＞
【企画推進部】
①昭和５２年３月築の地区公民館の耐震調査を行った結果、新築ではなく耐震工事とした理由について
　地区公民館の耐震補強は、平成２３～２４年度に実施した耐震診断調査結果を基に整備方針を定め、緊急度の高い公民館から順次改修を進めているところです。
　整備方針は耐震補強を原則としていますが、補強等に係る概算工事費と標準的な新築工事費とを比較し、地元のご意見も聞きながら検討しています。

津ノ井地区公民館は、耐震診断調査を基に算出した概算工事費等を総合的に判断した結果、耐震補強を行うこととし、地元の合意を得て、平成２７年度に実施設計、平成２８年度に工事を予定しています。

また、平成２６年２月と平成２７年２月の２回、地元からも耐震改修の早期整備について要望をいただいています。

②トイレの男女別化における改修整備について

ア）１、２階のトイレの男女別化改修について

地区公民館のトイレ男女別化改修は、耐震改修と合わせて優先的に取り組んでいる事業であり、平成３０年度までに事業完了する計画で進めているところです。２階以上のトイレ改修も必要であることは認識しておりますが、時間的・予算的な限度もあるため、まずは１階部分の男女別化改修および多目的トイレの設置を行い、全市域の課題解消を図りたいと考えています。

イ）部屋やロビーなどの、使用している部屋を狭くしての整備ではなく、裏のスペースなどを利用した増設について

今年度行うトイレ改修実施設計の中で、既存の部屋が狭くならないように考慮し、増築も含めた設計の検討を行います。

③２階大会議室利用のためのエレベーター設置によるバリアフリー整備、または裏のスペースを使った新たなスロープ設置について

平成９年度以降、２階建て以上の地区公民館を建築する場合にはエレベーターを設置していますが、それ以前に建設された公民館には設置されていません。

生涯学習および地域コミュニティの拠点施設として利便性・安全性の向上を図ることは重要だと考えますが、既に建築されている２階建て以上の公民館にエレベーターを設置することは、構造上後付けが難しいことや部屋が狭くなるなどの問題もあり、設置した例はありません。

現在本市が取り組んでいる公民館の改修では、

（１）安心安全のため、平成３０年度までに全公民館が新耐震基準を満たしたものとなるよう、耐震改修や建替えを行う

（２）地区公民館トイレの男女別化を図る

（３）地区公民館事務室と大会議室へのエアコンの設置

について優先的に取り組んでいるところですので、既存施設へのエレベーター設置についての検討はその後になることをご理解いただきたいと思います。

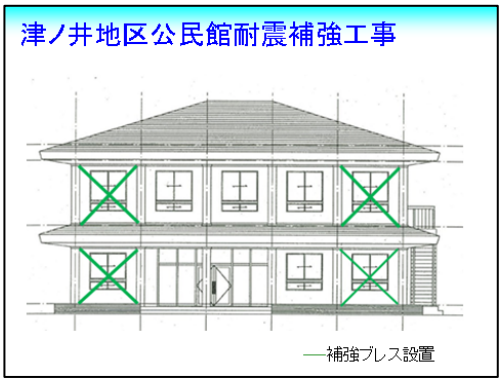
また、２階に上がるスロープを設置する場合、安全性を確保するための勾配を考慮すると、最低でも総延長５０ｍのスロープを設置することとなり現実的ではないため、２階に上がるためのスロープ設置は行いません。

④公立鳥取環境大学生の利用増加に伴う、地区公民館への多目的ホール（交流プラザ）の新設について

鳥取環境大学の公立化に伴い、学生が増え、周辺地域も賑やかになってきているものと考えます。特に、津ノ井地区は環境大学生の居住も多い地域であり、地域住民として公民館を活用されるのは、地域と交流するうえで重要なことだと考えています。

津ノ井地区公民館は、こうした大学生の利用に関して、他の利用団体との調整が図られていると聞いており、学生の利用増加に伴い施設を増設する計画はありません。

（企画推進部長）



鳥取市の地区公民館耐震補強については、平成２３年度から２４年度に実施した耐震診断調査結果を基に整備方針を定め、緊急度の高い地区公民館から順次改修を進めています。整備方針としては耐震補強を原則としており、耐震補強にかかる概算工事費と標準的な新築工事費とを比較し、地元の皆様のご意見もお聞きしながら検討しています。津ノ井地区公民館については、耐震診断調査を基に算出した概算工事費を総合的に判断した結果、耐震補強を行うこととして地元の皆様にも合意いただき、平成２７年度に実施設計、平成２８年度に工事を予定しています。また、平成２６年２月と平成２７年２月には、地元からも耐震改修の早期整備ということでご要望をいただいています。

地区公民館のトイレの男女別化については、耐震改修と併せて、現在、優先的に取り組んでおり、平成３０年度までに事業完了する計画で進めています。２階以上のトイレの改修が必要であることは十分に認識していますが、時間的、予算的な限界もあるため、まずは１階部分の男女別改修と多目的トイレの設置を行い、全市域の課題解消を図っていきたいと考えています。また、今年度中にトイレ改修の実施設計を行うので、その中で既存の部屋が狭くならないよう考慮し、若干の増築も含めた設計の検討を行いたいと考えています。

続いて、エレベーターとスロープの設置についてです。平成９年度以降に建設した２階建て以上の地区公民館にはエレベーターを設置していますが、それ以前に建設した地区公民館には設置していません。地区公民館は、生涯学習やコミュニティの拠点施設であるため、利便性や安全性の向上を図ることは重要だと考えていますが、すでに建築されている２階建て以上の地区公民館にエレベーターを設置することは、構造上後付けが難しいことや部屋が狭くなるなどの問題から、設置した例はありません。現在、鳥取市が取り組んでいる地区公民館の改修では、安全安心のため、まずは平成３０年度までに全地区公民館について耐震基準を満たすよう耐震改修や建て替え等を行っていくこと、トイレの男女別化を図っていくこと、そして事務室と大会議室のエアコンを設置していくことの３点について、優先的に取り組んでいます。既存の地区公民館へのエレベーター設置は、その後の検討課題になることをご理解ください。また、２階に上がるスロープを設置する場合、安全のために勾配を考慮すると、最低でも総延長が５０ｍのスロープを設置することとなり、現実的ではないため、設置は困難であると考えています。

最後に、公立鳥取環境大学の学生の利用増加に伴う地区公民館の多目的ホールの新設に

ついてです。鳥取環境大学の公立化に伴って学生数も増加し、今は千人を超える学生がおられ、大学周辺も賑やかになってきていると思います。特に、津ノ井地域は大学生の居住も多く、地域住民として地区公民館を活用されることは地域と交流する上で大変重要だと考えています。ただ、現在のところは他の利用団体との調整が図られていると聞いていますので、学生の利用に伴って施設を増設する計画はありません。

（地元意見）

津ノ井地区では、毎年のように自治会三役と区長会三役が、耐震対策について市長等に要望に行っていますが、耐震改修を要望したつもりはありません。

耐震改修であれば費用が安いのだろうが、昭和４９年や５０年、５２年築の他の地区公民館は全て新築され、なぜ昭和５２年３月築の津ノ井地区公民館が耐震改修になったのですか。耐震改修についても、当時、詳細な説明がなかったため協働推進課長に聞くと財産経営課が担当だと言われ、財産経営課に確認したら「聞いていない」と言われました。そして費用などの説明がないまま、今日、「平成２７年に実施設計をして２８年に工事を実施する」との回答です。詳細をもう少し説明してください。

（企画推進部長）

現在、耐震対応が必要な地区公民館は１８館あり、そのうち１２館について耐震改修する予定です。建築年次では、昭和４３年から昭和５２年、５３年築の地区公民館もあります。

津ノ井地区公民館は鉄骨２階建てで床面積が４０７ｍ^{2}あり、耐震改修を行った場合は、トイレ改修も含めて概算で５，７００万円が必要と考えています。

新築の場合は、床面積４５０ｍ^{2}を標準として１億５千万円が必要な計算となり、耐震改修と新築では約１億円の差が生じています。そのため、例えば耐震改修の予定だったものを新築に変更した神戸地区公民館については、かなり床面積を減らし、耐震改修とほぼ同じような額まで落とした経過もあります。津ノ井地区公民館の床面積は４０７ｍ^{2}なので、新築の価格を５，７００万円に近づけようとすると、床面積を大幅に減らすこととなり、現実的ではないと考えています。

なお、今年２月にいただいた要望書には、「耐震改修」と明記してあります。

（深澤市長）

耐震診断調査の結果、建設年次は早いが耐震性は悪くない地区公民館や、反対に建設年次は遅いが比較的耐震性が良くないなど、それぞれの地区公民館で状況がさまざまに異なりました。耐震性以外にも、比較的建築年次が遅いのに雨漏りがしていて、屋根を全て葺き替えなければならないような地区公民館もありました。その中で、耐震性の確保が一番急がれるということで、耐震対応を進めてきているところです。

神戸地区公民館は、耐震対応をするには８千万円程度が必要でした。鳥取市が標準としている地区公民館の床面積は４５０ｍ^{2}ですが、神戸地区では地域で協議され、８千万円もかかるのであれば、床面積が４５０ｍ^{2}なくてもよいので新築した方がよいという話し合い結果をまとめられました。

当津ノ井地区公民館においては、トイレ改修も含めて約５，７００万円程度で工事ができるという概算見積りを行っています。まずは耐震性の確保ということでこの耐震対応を進めさせていただいてはどうかと思っています。

最近では、地区公民館を新築する場合には平屋建てになっています。これは、バリアフリーと、階段部分が有効に活用できるためです。しかし、平屋建てで床面積が４５０ｍ^{2}となると、敷地をどこに確保するかなどいろいろな課題が出てくるため、そのあたりも引き続き地域の皆様のご意見も伺ってみたいと思っているところです。

まずは安心安全の確保ということで、鳥取市の方針に基づいて耐震やトイレ改修を進めさせていただきたいと考えています。

（地元意見）

津ノ井地区公民館は築３８年が経過しています。今回の耐震改修により、あと１５年も２０年も新築しないことになれば、その間はエレベーターもなくバリアフリーではないことになります。

また、今も狭い中で地区公民館を使用しているのだから、ホールや１階部分の既存部分の間取りを変更してトイレを設置するというのはありえません。そのあたりも考慮して検討してほしいです。

（深澤市長）

エレベーター設置には場所の問題等もあるため、まずは全市的な方針として、全地区公民館で耐震精度の確保やエアコンの設置等をしたいと思っています。

トイレについては、現在のスペースをトイレにすると大変狭くなるため、内部でもいろいろ検討させていただき、1階については少し建物を外に拡げてはどうかと考えています。

既存スペースが少なくならないような工夫はさせていただきたいと考えています。

（地元意見）

津ノ井地区公民館２階の大広間は、災害時の避難場所になっています。しかし、２階には洋式トイレがありません。そのため、避難した場合、避難生活の中で階段の昇り降りが大変になるのではないかと、自分の膝が悪くなって初めて気がつきました。

２階のトイレ全てとは言わないが、１階だけではなく、２階にも洋式トイレを設置する計画を立ててほしいです。

（地元意見）

今後、２階のトイレも広げてほしいという話が出た時に、１階トイレが古くなって使用できなくなったりしていれば、二重投資になります。予算的な問題はあるかもしれないが、思い切って１階と２階のトイレ改修を同時に行うような決断をしてほしいです。公立鳥取環境大学の学生が頻繁に使用しています。若い女性もいるのに、こういう現状でよいのかと思います。

（企画推進部長）

２階のトイレの洋式化については、十分検討させていただきます。

（深澤市長）
２階トイレの改修については内部でも検討しました。必ずしも予算的な問題というわけではなく、構造的に可能かということもあります。津ノ井地区公民館は１階と２階の間に屋根が張り出しているため、建物の構造的に２階部分を張り出すことが可能かどうか、もう少し専門的な知見も求めながら具体的な検討させていただく必要があると考えています。
また、効率を考えると同時に実施した方がよい場合もあります。我々が行ったのも机上での検討であり、何とか１階はできるだろうということは検討しましたので、２階についてはもう少しお時間をいただければと思います。

（担当課補足：協働推進課）
現在本市が取り組んでいる公民館の改修は、
（１）安心安全のため平成３０年度までに全公民館が新耐震基準を満たしたものとなるよう、耐震改修や建替えを行う
（２）地区公民館トイレの男女別化を図る
（３）地区公民館事務室と大会議室へのエアコンの設置
について優先的に取り組んでいます。

トイレの男女別化改修は、多目的トイレの設置を同時に行っていることもあり、１階部分に限定し優先的に行っていますので、２階部分のトイレ改修は上記の改修後に、改修方法も含め計画的に取り組むように考えています。

（地元意見）
耐震改修は、鉄骨だけ残して全て改修するとか屋根は残すなど、具体的にどういう方法で行う予定ですか。

（協働推進課長）
現時点では、建物の１階と２階の四隅１６か所に耐震ブレスを入れる予定にしています。

（地元意見）
耐震ブレスは建物の外部ですか。外壁はひびだらけで落ちている部分もあります。外壁の修繕も設計の中に入っているかどうか確認してください。外壁修繕を含めると費用が増加するのであれば、新築した方が良かったということになるので、十分検討してもらわなければいけません。

（深澤市長）
まだ、大まかな現在の状況をご説明させていただいているところです。実施設計に入れば、どこを補強してどういった形で耐震ブレスが入り、どう耐震性が保たれるかという話が具体的に出てくると思いますので、その時点で詳細についてお知らせさせていただきま

す。

2　市道桂木杉崎線道路整備工事について

＜地域課題＞

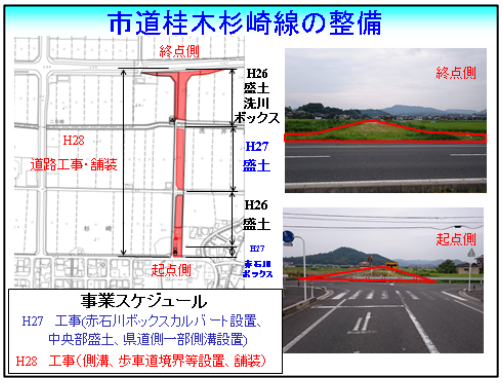
平成２８年度整備完了に伴う道路の供用開始について

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

市道桂木杉崎線整備は、平成２８年度内の完成に向けて国へ予算要求することとしています。今年度は赤石川へのボックスカルバート設置、中間部への盛土、県道側一部側溝整備を行い、平成２８年度に歩車道境界ブロックおよび側溝等整備、舗装を行う予定としています。

（道路課長）



平成２２年から事業着手していますが、少し遅れています。現時点では平成２８年度内の完成に向けて国へ予算要求することとしており、平成２９年４月には供用開始できればと思っています。

今年度は、杉崎集落側の赤石川に「ボックスカルバート」と呼ばれるコンクリートの箱を設置し、併せて県道東側に水路を設置する予定です。その工事はすでに発注しており、９月上旬に説明会を開く予定です。また、１０月には中間部への盛り土の工事も発注する予定です。ボックスカルバートの設置工事にあたっては、すでに供用開始している桂木杉崎線が通行止めとなるため、予告看板などを設置して迂回路等の案内をしますので、ご協力をお願いします。

平成２８年度は、全延長にわたって「歩車道境界ブロック」と呼ばれる車道と歩道との間の２０ｃｍ程度の高さのブロックを設置することと併せ、残った側溝の整備を行う予定です。その後、まとめて舗装工事を行う予定です。

（地元意見）

市道桂木杉崎線は平成１９年に完成しました。当時の担当者の説明では３年以内くらいには県道まで完成するという話だったが、いろいろ変更された結果、平成２８年度の供用開始予定とのことで、約１０年もかかっています。これ以上延びないよう、平成２８年度中に完成させてください。

私の家は９月からの工事部分の道路沿いにあり、朝の通勤時間帯にはなかなか道路に出られません。多い時には、自動車が次から次へと来て、５分も１０分も道路に出られないことがあります。そのこともあり、なるべく早くしてほしいです。

（深澤市長）

この市道桂木杉崎線の整備には大変時間がかかったと思っています。平成２８年度中に

は完成させていただくよう、できる限り努力していきたいと思います。私も副市長時代に、市道桂木杉崎線についての要望を直接いただいたことが何度かあります。当時からすると、よくここまでこの事業を進めてこられたという思いもあります。

国からの交付金や起債等もあるため、国や鳥取県には引き続き要望していきたいと思います。本日もこの道路の関係で、国交省と鳥取県選出の国会議員を訪問し、予算確保等について要望してきたところです。引き続き、予算確保等も含めた道路整備について、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

（地元意見）

工事予定部分の道路沿いに家がありますが、家の裏にある畑には毎日と言っていいほど空き缶などの不法投棄があります。また、犬の散歩の際に、路上に犬の糞を放置したままの人が非常に多く、ひどい時には私の家の敷地内に糞がしてあることもあります。

この道路の左右は水田なので、開通後はその水田に不法投棄する人がますます増えるのではないかと思っています。鳥取市には不法投棄の条例があるようですが、罰則もあってないようなものです。不法投棄に対する広報と道路監視員を増やし、不法投棄を減らす対策を取ってほしいです。

（深澤市長）

投棄監視員さんにもご尽力いただいていますが、残念なことに不法投棄はまだなくなっていません。この道路の供用開始後に周辺に不法投棄が増えたということがないよう、広報等にしっかり取り組んでいきたいと思いますし、さまざまな機会を通して市民の皆様に周知していきたいと思います。

目にあまるような不法投棄があった場合にはご一報ください。罰則はあります。ひどい場合は犯罪になり、罰金等の対象にもなります。環境下水道部生活環境課が担当になりますので、ご連絡いただければそれなりの対応をさせていただきたいと思います。

（担当課補足：生活環境課）

津ノ井地区につきましては、１９自治会すべてから各１人不法投棄監視員さんが選出され、１９名に活動いただいており、鳥取地域内でも１番活動人数が多い地域になります。不法投棄を発見次第報告いただいており、当課は監視員さんと密接に連携を取りながら、早期発見早期処理に努めております。

不法投棄が多い場所がありましたら、地区の監視員さんや町内会長さんを通じて、あるいは直接、生活環境課（電話０８５７－２０－３２１７）にご相談ください。

犬の糞の放置は条例により禁止されています。飼い主へは、狂犬病予防接種の際や市報、市のホームページにより注意喚起を行っております。

また、犬の糞の放置を行っている個人が特定できましたら、鳥取県東部生活環境事務所が飼い主に対し直接管理指導を行っておりますので、ご相談いただくこともできます。（鳥取県東部生活環境事務所生活安全課　電話０８５７－２０－３６７５）

不法投棄や糞の放置に関する広報に関しましては、啓発につながるよう適切に行ってまいります。

（地元意見）
道路整備工事に伴って交通量が増えることが想定されます。交通量増加に伴って、現時点で対策は考えていますか。特に鳥取工業高校前の辺りまで続く道路と一本化するとのことですが、そこには通学路があります。信号機の設置について検討してほしいです。

（道路課長）
現時点ではまだ考えていませんが、交通量をみて、所管である警察署と協議しながら要望していくことになると思います。

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
以前、空山開発の計画があり、４千万円ほどかけて空山に林道をつけました。しかし、いつの日か空山開発は反故になりました。宇部野山開発に移行したのだといった話を、当時の区長から聞いたこともあります。
しかし、地元は４千万円もかけたのに反故になったのです。これは、下の村の協力者が十分でなかったということが、理由としてあったかもしれません。その影響で、以前も、協力しなかった者が「木を切り出したいので林道を通らせてくれないか。」と交渉してきたが、「お前が協力しなかったからこの道路の計画は反故になったのだ。だから村として林道は通らせない。」と拒み、林道が通れないために木の切り出しが中座したこともあります。しかし、当時反対していた下の村の地権者も、すでに亡くなって世代交代していると思います。せっかくお金をかけてつけた林道なので、有効活用され、将来的に下の広岡農場や越路まで続くようにできないかと思います。

（深澤市長）
空山開発については私も以前からいろいろお話は伺っています。壮大な計画ですが、今は状況も変わったとのお話ですし、反故ということではありませんので、地域の皆様のご意見も伺いながら、この取り組みが進めていけるかどうか検討を再開させていただきたいと思います。

（担当課補足：林務水産課）
この林道は、柿ノ内谷線として周辺の森林施業のため昭和５２年、５３年に開設し、昭和６２年に舗装整備を行った、幅員４ｍ、延長１ｋｍの行き止まり林道です。
この林道を幹線とした作業路網の整備によって間伐などの森林整備は可能と考えており、林道のさらなる延伸は必要性が低いと考えます。

（地元意見）
若葉台に公立鳥取環境大学ができ、若葉台から国道２９号線の堀越にかけて、バイパス道路がつくとのことでした。バイパス道路は、現在は若葉台で止まっています。私も無償提供ではなかったが、土地を提供しました。しかしそこも荒廃しているような状況です。
道路計画は、今どうなっていますか。

（深澤市長）
私も現況がどうなっているか承知していませんので、確認させていただきたいと思います。

（担当課補足：都市企画課）
道路管理者である国土交通省鳥取河川国道事務所へ確認したところ、下記の回答がありましたのでお知らせします。
[国交省回答]
津ノ井バイパスは、旧国道２９号の交通混雑の緩和、安全で円滑な交通確保、地域間の連携を図ることを目的として整備を行っており、投資効果を早期に発現させるため、暫定的な形態で整備を行ったところです。
渋滞や事故の発生状況等を把握しつつ、当該地域の交通状況、社会経済情勢等を踏まえ、今後の対応を検討します。

（地元意見）
鳥取市は中核市を目指しているとのことですが、中核市になるための人口要件は２０万人以上だと思います。鳥取市の人口は２０万人を下回ってどんどん減っていくのに、可能なのですか。

（深澤市長）
可能です。鳥取市は、人口２０万人以上の市がなれる「特例市」の指定を平成１７年１０月に受けています。この「特例市」だった市については、今後５年間は人口が２０万人を下回っても中核市になれます。
これから人口がどんどん減っていくのではないかとのご意見ですが、中核市を目指すことも、人口が減少しないための取り組みの一つであると我々は考えています。
中核市になると、鳥取県の保健所業務が鳥取市の業務になります。県の保健所業務と、市が現在行っている保健センター業務を市が責任を持って一体的に行うことにより、将来に向けた保健福祉行政を、市が考えて進めていくこともできます。また、市民の皆様にとっては保健所業務と保健センター業務の区分けが非常に分かりにくいですが、鳥取市が一体的に行うことで、便利になります。
中核市は鳥取市だけの問題、課題ではありません。鳥取市周辺の東部圏域、因幡圏域、山陰東部圏域、北但馬の新温泉町や香美町も圏域と考えることができるかもしれませんが、これらの圏域が今後も存続し、さらには発展していくために必要な選択であると判断しています。
人口が減少せず、ますます活力ある地域になり、住んで良かったと思える市、圏域にするため、中核市への移行を目指しているところです。

（地元意見）
津ノ井駅近くのますこ食堂の交差点からバイパスに向かって進むと、交差点にコンビニ

エンスストアがあります。そのコンビニエンスストアの裏だけ道路が狭くなっているが、この度、市が動いてくれて良い道路になることになりました。ありがとうございます。工事はいつ頃の予定ですか。

（道路課長）
今年度に入ってから地権者さんのご協力が得られることになり、急きょ７月にコンサルタント会社に測量設計を発注しました。今後は９月に境界立会を行い、今年度中に用地交渉、用地契約を行います。その後、平成２８年度に工事して完成の予定としています。

（地元意見）
祢宜谷、香取、紙子谷は、バイパスと線路の谷間になっており、バスに乗車しようと思うと、バイパスのバス停まで歩いて行かなければいけません。バス停までは距離があるため、時間に余裕を持って出かける必要があります。
若葉台まではバスがきているのだから、１本でも２本でもいいので祢宜谷を経由してほしいです。たしかに若葉台には大学生がいて人が多く、祢宜谷はそこまで多くはありません。しかし今後は、元気でも高齢になって自動車に乗らなくなる人が増えてくると思います。
もしバスが通ることになると道路が狭いので、道路も拡げてほしいです。降雪時には、自動車のタイヤを溝に落とす人があり、よく手助けをしに出ます。以前、地区要望にも出したことがあるが、人口的な問題などもあり実現していません。

（深澤市長）
バスが通ることを考えると、祢宜谷の中の道路はたしかに少し狭いと思います。
いずれにしても、今後ますます高齢化が進み、ご自分で自動車を運転される方が少なくなれば、公共交通の維持は大変大きな課題になってくると思っています。今すぐバス事業者に依頼するのはなかなか難しいと思いますし、道路が狭いことについても一度に解決するのは難しいとは思いますが、公共交通の維持確保は全市的な問題でもあるため、課題として受け止めさせていただきたいと思います。

（地元意見）
今、各地で空き家が問題になっています。桂木にも６軒ほど空き家があるということです。智頭町には、森のようちえん「まるたんぼう」もあり、県外からの移住の事業をいろいろ行っているようですが、鳥取市として対策として考えていることはありますか。

（深澤市長）
「空き家対策」は２通りあります。１つは、老朽化が進み倒壊の危険がありながら所有者に対応していただけない空き家に対する対策、そしてもう１つは、人に住んでいただいて利活用していく取り組みです。
後者については、空き家を提供してもよいという所有者があれば「空き家バンク」に登録していただき、例えばＵＪＩターンで市外や県外から移住される方に活用していただけ

るよう紹介するなど、いろいろな方法があると思います。
　まず、所有者のお考えがどうかということが一番のポイントにはなりますが、鳥取市としては空き家の有効活用等に取り組んでいますので、いろいろな状況等もお知らせいただければと思います。

（地元意見）
　津ノ井から市街地に行く時は久松山に向かって出ます。湖山から市街地に行く時も久松山に向かって出るし、鳥取駅も真正面に久松山があるのです。私は、久松山が大好きです。今は、鳥取西高等学校の近くの大手門の改修、復元に力を入れているようですが、久松山にシンボルがあれば大きな目玉になり、観光面でもアピールできると思います。
　鳥取城は、城としては全国的に案外人気があり、多くはないが県外からも観光客が来ています。先日は外国人も来ていました。最近、天守閣周辺の木を伐採して石垣が見えるようにしたようだが、大変良いことだと思っています。木の剪定を工夫して、遠くから見ると天守閣跡に建物があるように見せることができればよいと思います。

（深澤市長）
　現在、久松山鳥取城跡の整備として、１０年ずつ３期をかけ、合計３０年で整備を進めていこうという壮大な計画を持っています。１期めは大手門や擬宝珠橋、鳥取西高等学校入り口の所の堀の橋といった、門の辺りを整備する計画です。現在実際に進めており、平成３０年には、橋や門の辺りの整備が完成する予定です。この計画により、旧鳥取城の面影が現実に復元されることになります。将来的に城郭の整備などもできればよいと思っていますが、まずは着実に１期の計画を進めていくことから始めていきたいと思います。
　また、観光資源としても中心市街地の目玉になる資源だと考えています。山頂のお城は１５４５年、戦国時代中世に築かれたと言われているし、二ノ丸の三階櫓の辺りは江戸時代近世の城郭です。このように、久松山には２つの時代の城跡が残っており、非常に価値が高いと思います。
　昨年も「山城サミット」という全国サミットを開催しましたが、我々が想定していた以上に多くの方が全国各地からご参加くださいました。お城のファンはたくさんいらっしゃると思いますので、市民の皆様のご理解をいただきながら、鳥取城跡整備という壮大な事業を着実に進めていきたいと思っています。
　頂上部分の木をお城の形に剪定することが可能かどうかについては分かりませんが、まずは着実に一つずつ進めさせていただきたいと思っています。

８　市長あいさつ
　限られた時間ではありましたが、非常に多岐にわたり、ご質問、ご提言をいただいたことに、心から感謝申し上げます。
　市道桂木杉崎線も、できる限り急いで整備を進めさせていただきたいと思っておりますし、地区公民館についてもいろいろなご意見をいただきましたが、基本的に鳥取市としては、まずは耐震性、安全安心を確保させていただきたいという方針です。どういった状況か、そして具体的な耐震方法はどういったものかについては、今後明らかになっていきま

すので、また地域の皆様のご意見等も伺いたいと思っています。

中核市についても、いろいろなご意見やご質問をいただき、ありがとうございました。鳥取市は、将来を見据え、中核市移行や地方創生の人口ビジョン、総合戦略を進めていこうとしているところです。合併して１０年が経過し、今後、さらに新しい時代を見据えたまちづくりを進めていかなければならないと思っています。その時期が、まさに今だと思っていますので、引き続き、皆様のいろいろなご意見をいただきながら着実にまちづくりを進めていきたいという思いでおります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げますとともに、長時間熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。